

<要旨>

平成 23 年(2011)年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、また地震に伴う津波の影響により発生した東京電力福島第一原子力発電所事故から 11 年が経過した。現在、日本では、世界的なエネルギー価格の高騰やカーボンニュートラルの実現思考から停止中の原子力発電所への再稼働の動きが活発化している。

その反面、福島第一原子力発電所事故により、現在も故郷に戻ることを許されない人々や風評被害の影響を受け続ける人々が多くおり、復興には程遠い状況である。

本研究では、まず福島第一原子力発電所事故を振り返る。そして首都圏唯一の原子力発電所であり、避難対象者が全国で最多の 94 万人にのぼる茨城県東海第二原子力発電所に注目し、事故対策について考察していく。